

## 第9回函館市財政再建推進会議 会議録（概要）

- 日 時 平成26年11月27日（木） 18:00～  
■場 所 市役所8階 第1会議室  
■出席委員 奥平委員長，佐藤副委員長，風間委員，寺井委員

### 【会議概要】

- |   |        |  |
|---|--------|--|
| 1 | 開 会    |  |
| 2 | 意見交換等  | (配付資料に基づき，事務局が説明)<br>① 函館市行財政改革プラン2012の進捗状況について（行政改革課長）<br>② 函館市の財政状況について（財政課長）  |
|   | 佐藤副委員長 | 引き続き，効果が出るように対策を進めてほしい。<br>基金の残高はどのようになっているのか。   |
|   | 財政課長   | 25年度末の残高は，財政調整基金が約3億8千万円，減債基金が約2億1千万円，このほか公共施設整備等基金が約26億3千万円など基金総額では約154億5千万円となっている。   |
|   | 寺井委員   | 評価を明確にするということで組み立てているが，評価がBに集まり，順調に改革をしてもB評価となり，明らかな前倒しや上回っているものしかAにならない。市役所の意識改革も全部Bとなっているが，Aでいいものの中にはある。<br>前回はA評価が少なく，それぞれの部局で，ちゃんとやっているのであれば，胸を張って，評価をしましようという話もしたが，そこにはたどり着いてはいない。当初の見直しの考え方がわからないと現状が理解できないので，工夫してほしい。<br>もう一つは，事業仕分け等で議論されたものや関連する事業があるが，その中で，ヤングカップル住まいりんぐ支援補助金は，仕分けの時には廃止を含む見直しという結果で，しかも先般の外部評価の時に中心市街地活性化推進費においても話題になっていた。プランの評価はAでいいが，それと同時に新制度も始まっていて，これは記載されていないが，若干の要件が変わったくらいで，形を変えて復活している。新制度について検討・評価できるような見せ方をお願いしたい。<br>他にも，タクシー料金助成については，類似の事業がある中で，まとめて整理が必要であるとなっていたものであり，難易度が高いというのはわかるが，遅れているように感じる。<br>灯台資料館も仕分けの時に話題になっていたが，あり方の検討内容がわか |

らず、他の施設との連携も含めてなのか、単純に施設の維持費、運用のあり方なのか、評価がBになってしまうと、評価のしようがない。資料の作り方、進捗状況、最終的には評価ももう少し見えるようにすべきではないか。特に見直しを終了した事業について、違う形で復活されると困る。削減ができたのかが見えない。

ただ他の事業については、しっかりと取り組みがされており、成果も出していると見えるが、91項目のうちの77がBという、良くも悪くもないということになっているので、もう少し頑張ったと見えるようにしてもいいのではないか。

風間委員

事業仕分けの時の評価基準と比べると、わかりづらいというか気持ちが伝わらない。市役所の意識改革にAが一つもないというのは辛い。今の説明でも8億円の取り崩しもなく、いい状況で済んだのなら、そこをもう少し出してほしいし、意識改革は今さらどうのこうのではなく、Aがつかないといけないのではないか。危機感がなければ、どんなに頑張ってもだめなわけで、職員から市民につながっていかない。これだけ見てしまうと、何にも感じていないのかと思う。Bはいい点数ではなく、普通だとなってしまう。もう少し細かくしてほしいのと、頑張った分として意識改革をAとしてもいいと思う。行政の文章は似たようなものになるが、ここはこうしたと言い切ってもいいのではないか。そして、予算・決算の説明では、大変な状況になるとあったが、危機感があるほうがいいと思う。長年ずっとやっていてこのままでいいと思っていると進化がない。危機感を持ってこうしたというのがあれば自信を持っていいし、福祉などはこれから高齢者が多くなり、どんどん支出が増えるのはわかる。そういう面からも、今何が重要かということポイントを踏まえ、必要ないところは削るしかない。仕分けの時に廃止とか厳しい評価を出したところが、頑張ったりしている。頑張ったところは評価をし、A評価がいくつあってもいい。

奥平委員長

評価対象外が多く、その部分がちゃんと評価されてないところが、この結果になった原因ではないかと思う。これが機能していないので、Bに集まっているのではないか。取扱いを検討していただいて、もうちょっと頑張っているところがAになるようにすると、頑張っている市役所というのが印象づけられると思う。

市税の伸びが良かったという話があったが、その原因はどのように市では考えているのか。

財政課長

対前年度で7億円の市税が増えたが、この部分については、まず、法人市民税で、市中の金融保険業、さらには製造業で良くなっている。あと、徴収体制の強化により、収納率が向上していて、これにより、市税の実質収入額が増えていると分析している。

奥平委員長                   これで消費税が上がると、収入も増えると考えていいのか。

財政課長                    消費税については、地方消費税交付金ということで、譲与税・交付金として入っている。26年度は、対前年度の影響額としては少しだが、市税ではなく譲与税・交付金として影響額が出ている。

奥平委員長                   それは、率が上がると配分が増えるのか。

財政課長                    地方消費税交付金の額が増えるということになる。ただ、一方で、地方消費税交付金というのは、地方交付税の収入となり、消費税による収入が増えることにより、入った分100%そのまま地方交付税に算入されてしまうことから、収入面でいうと影響がほぼないという状況になる。地方消費税の収入と交付税の基準財政収入額がパーターになる。

                                  また、一方で消費税の増額分は、社会保障の充実財源に使うということで、地方交付税の需要に入ってくる。さらには経常経費も入ってくる。そういう意味で交付税が増えると考えられるが、交付税総額が落ちていることから、交付税の地方消費税の増税分が需要で見込まれても、全体で落ちてしまう。それが地方自治体としては、かなり危機感を持っている。

                                  (その他、事務局から外部事業評価について説明)

寺井委員                    今年度は、土日開催で2回に分けて行ったが、連続して開催することによって扱う案件が非常に多く、2日あるとはいえ、事前に資料を確認して、場合によっては、下調べをしなければならない。

                                  一つの案として、連続して2日ではなく、同じボリュームで行う場合、4か月間、月1回で、1回の事業を5前後とするというのと、平日開催で昼から夕方まででも十分に開催可能ではないか。月に1回くらいなら平日でも構わないと考える。

佐藤副委員長                休日だと、皆さんも休日出勤することにもなるので、もし可能であれば、平日の日中でも月1回であれば、時間も合わせられるかと思うので、そうしていただいた方がいいと思う。

奥平委員長                   では、今の発言も踏まえて、事務局で検討していただきたい。

                                  それでは、総括したいと思うが、行財政改革プランについては、おおむね順調に進捗していると感じたが、一方で、今後の財政の見通しは不透明な状況にあることから、引き続き、行財政改革を進めていく必要があると考える。それでやはり、改善を頑張っているところには評価してもいいのではないのか。8億円の取り崩しをなくしており、自信を持って出していくべきではないのかと思っている。そしてさらなる努力をお願いしたい。

総務部長

委員の皆様には大変お忙しい中、出席いただき感謝申し上げたい。

評価に対しては、これは前年度の会議の中でも、ご意見をいただき、評価区分について、A評価を増やしたが、B評価に幅があるということで、ここは来年度に向けて検討したい。

また、個別表の説明も必要な部分を盛り込むことについて検討したい。

この評価は、個別の項目ごとに各部局で進捗管理を行うとともに、全庁的な視点で取り組みを確認をしながら進め、外部の委員さんのご意見もいただいているが、常に様々な見直しを図っていかなければならない。

財政の状況も、明るい要素を見つけにくい状況にあり、間断なくこの行革プランに取り組みたい。また、機会あるごとにご意見いただきたい。

3 閉 会